

はじめに

大学改革が叫ばれ、大学における研究・教育の高度化、国際化、地方化が大学の大きな課題となっている。この中で研究・教育の地方化とは、大学が如何に地域貢献をなすするか、別の言葉で言えば大学が存在するその地域に対して、どのような社会的責任を果たすかということを問われている。

これまでこの叢書は、公開講座叢書としてNo.13までを数えてきた。それは長崎大学が主催する公開講座で語られてきたことを中心に、地域に存在する様々な課題、例えば環境、福祉、地域経済、街づくり等について、多方面からの分析と問題提起がなされてきた。

今回は、そうしたこれまでの成果を踏まえつつ、大学が地域とどのように向き合うかという課題を、第I部で公開シンポジウム—地域と向き合う大学を考える—及び第II部の各領域の生涯学習事業という構成で形作ってみた。この第II部では、双方向的高校・大学の連携や大学と手を結ぶ高齢者技術者の問題、地域医療と大学とのあり方を問うといった、具体的事例を基にした作業から迫ってみた。これらの具体的事例は必ずしも公開講座というような形式を取ったものではない。むしろ大学の教官夫々が自分の研究を通して地域と関わった結果として表れてきたものである。違った言い方をすれば、社会が求めるニーズに対して、地域に存在する大学の教官として、自分なりに責任を果たそうとしている姿であると言うことができよう。こういう地域と大学の関係が正に、生涯学習の中で必要とされてきた「より公共性の高い大学の教育と研究」の創造を目指すものと言えるであろう。「地域と向き合う大学」というメインテーマを掲げ、今年度から生涯学習叢書とした意図はここにある。

長崎大学生涯学習教育センターは大学生涯学習のあり方を問い続けながら、新たな生涯学習を創造する次の段階へ歩みを進めていることを感じている。新たな生涯学習叢書Iのために執筆いただいた教官各位の熱意と厳しい出版事情の中で、出版いただいた財務省印刷局ならびに大学事務当局のご支援に心から感謝いたします。

平成14年3月

長崎大学生涯学習教育研究センター運営委員会

委員長（生涯学習教育研究センター長） 糸山景大